

特集

いしおか に さ め た。 。

国土人口創出課

Tel 23-7278

どこで、どんな暮らしをするか選択をするとしたら、あなたは何を重視しますか。昨今、私たちの「暮らし」はコロナ禍を経て、大きく変容しています。私たちは、どこに居住の拠点を置くかという選択において、就労や学業に関する参加形態が多様化したため、「暮らし」に関する選択の幅がより広がりました。

このような社会情勢を踏まえた上で、石岡を選択し、石岡で生活を始めた地域おこし協力隊員4人にお話を伺いました。移住者目線で見た石岡のいいところ、移住を選択した決め手、活動の中で生まれた住民とのつながりについてご紹介します。

令和6年4月より「観光を中

心とした魅力創造および発信分野（観光隊員）」の地域おこし協力隊員として活躍中の金子誠司さん。金子さんは主に、いばらきフーラーパークにて自身の業務にあたっています。そんな金子さんが縁もゆかりもない石岡市を移住先として選定した理由は、石岡地区にある「看板建築」などの昭和レトロな建築物と八郷地区の豊かな自然、この2つが共存している環境に魅力を感じたから。前職のイベント製作会社での経験を活か

しを協力隊の活動の中で企画・提案していきます。移住して約一カ月（※）と石岡での暮らしをスタートしたばかりの金子さんですが、都内まで電車で一時間と石岡の交通アクセスの良さを既に感じているとのこと。

「これから石岡在住の方たちと関わりを持ちながら、石岡の歴史や文化についての見聞をもっと広め、地域おこし協力隊としての活動につなげていきたいです」とお話ししてくれた金子さんの今後の活躍に期待です。

※取材時（5月13日）から換算。

大澤泰子さん

「茅葺き民家の保全活動・循環型の里山農業の実践」

循環型農業からつながるご縁

昭和レトロな建築物と豊かな自然に魅せられて―



金子誠司さん

観光を中心とした魅力
創造および発信分野
(観光隊員)」



家族の近くで生活したいと思い立ち、Uターン移住を決心した大澤泰子さん。活動最終年度となる今年度は放置竹林や廃棄茅を畑に活用する循環型農業を実践するため、協力隊の活動にて知り合った大倉さんの畑に茅を敷きました。「石岡は農業を始めるのに気候も地形も最適のまちだと思えます」と語る大澤さん。自身も農協の農業講座に通い、農業を始めるため準備中です。地域おこし協力隊の活動を通じた数々の出会いからご縁が続き、地域の皆さんとの関わりが日常となる中、取材にご対応いただいたこの日も、さ

まざまな人からの連絡が絶えません。大澤さんのコミユニティでは、廃棄となってしまうような竹や茅を畑に活用したいと考えている方が多くいらっしゃいます。そんな人たちの架け橋となり、毎日の活動に励む大澤さんはまさに、地域になくてはならない存在となっているように感じました。「皆さんの作業をお手伝いしながら、自分も少しずつ農業を習得させていたんでいます」とお話する大澤さん。今後は石岡市で働きながら、自分で作った農作物を直売所に出荷することが目標とのこと。



自分の理想の暮らしである田舎暮らしを
実践している人との偶然の出会いから、八郷地区を知り、
石岡への移住を決意した小原さん

小原百恵さん

「環境教育プログラムの開発と情報発信」

理想の生活を追い求め、新たな挑戦へ

たすら前進

生まれ育った故郷への移住を決心した佐川さん。都内では内勤の仕事をしていましたが、外で体を動かしながら茅葺き技術を習得する仕事に魅力を感じ、地域おこし協力隊という道を選択しました。「実際に現場に入ってみて、自分に合っている仕事だと感じています。外での仕事なので進捗状況は気候や温度に左右されますが、体を使う作業が多いので、身体的にも精神的にも健康的になったと思います」と語る佐川さん。現在は石岡の茅葺き職人さんと一緒に現場に入りながら、実践形式で技術を学んでいます。現場は石

岡の他にもさまざまで、必要とされた各々の場所に向き作業を行います。取材にご対応いただいた時期には、水戸の現場に入っており、現場での実際の作業についてお話を伺いました。石岡を出た時には感じることでなかった故郷の「人の温かみ」や「自然あふれる環境」に、今では強い誇りを感じているという佐川さん。外に出たからこそ、何もないと思っていた石岡の何気ない風景や自然豊かな環境が当たり前ではなかったということが気づくことができたとお話してくれました。ふるさと石岡を思う気持ちを強く持ち、引き続き茅葺き職人を目指して突き進みます。

移住定住支援サイト 「MIPPE」

石岡市移住定住支援ポータルサイト



▶ 石岡市の移住・定住に関する情報をまとめたホームページ。「INTERVIEW 石岡のひと」では石岡に移住後、数々の方面でご活躍されている移住者の方々の情報を知ることができます。本特集でご紹介させていただいた地域おこし協力隊員の小原百恵さん、佐川元太さんの情報も詳しく掲載されていますので、ぜひご覧ください。

二次元コードを読み込み
ホームページをチェック▶



いしおか暮らしを 発信！

地域おこし協力隊員が自ら運営するFacebook、Instagram で何気ない石岡について再発見してみませんか？普段隊員達がどんな活動を行っているのか SNS を通して知ることができるチャンス♪

二次元コードを読み込み、隊員の活動を応援しましょう！



▲ Facebook



▲ Instagram

ん。協力隊としての活動テーマである「環境教育プログラムの開発と情報発信」を進める一方で、自給自足の暮らしへの挑戦の第一歩として有機野菜の栽培を始めました。不耕起栽培（土を耕さずに野菜を育てる方法）という栽培方法で野菜を育てている知り合いの農家さんの協力のもと、畑をお借りしてほうれんそうやチンゲン菜、水菜などさまざまな野菜を実際に育てながら、試行錯誤を繰り返しています。「便利になった今だからこそ、田舎で循環的な暮らしを

したいという思いが強くあります。自給自足かつ環境再生を意識した暮らしを目指して、日々勉強中です」と語る小原さん。取材にご対応いただいたこの日は、育てた野菜を収穫しながら知り合いの農家さんのレクチャーのもと、野菜の生育状況を確認しました。同じように育てた野菜でも、日の入り方や土の違いで大きさや味に差が出てしまうことを学び、野菜作りの奥深さを実感しました。理想の暮らしに向けた小原さんの挑戦はまだまだ続きます。

茅葺き職人を目指し、ひ

佐川元太さん

「茅葺き技術の習得と
情報発信」